

牛久：学校周辺に見る自然

第11号 牛久二小

2011年5月24日発行

＜ ビオトープ周辺の観察から ～ 春から夏へ：①昆虫の仲間 ＞

5/20、牛久二小3年生が今度は、オクラの種まき後の残り時間で、ビオトープ周辺を観察しました。短時間ではありましたが、4月の観察の時に比べ、多くの生き物たちが姿を現してくれました。それらの中から今回は、昆虫の仲間を紹介しましょう。

(1) クロスジギンヤンマ



ギンヤンマに似ているけれど、胸部側面に黒い線が2本入っているため、とまってくればまず間違えることはありません。樹木に囲まれた池や沼でよく見られるということなので、牛久二小のビオトープは、このトンボにとってちょうど暮らしやすい場所なのでしょうね。この日は、何度も水草の根もとや枯れた水草の茎に卵を産みつけていました。茎の周りを少しずつ回りながら産卵している時もありましたね。ギンヤンマは基本的にオスとメスがつながって産卵（連結産卵という）しますが、こちらはメス単独で産卵します。

この日はオスしか見かけませんでしたが、先日は校舎前をメスも飛んでいました。チョウはオスが美しい模様や色をしているものが多いのですが、例外的にメスの方がめだち、毒チョウのカバマダラに擬態しているといわれます。南方系のチョウで温暖化にともない北上しているといわれますが、幼虫のエサになるパンジーなどに卵などの形で紛れていることも原因の一つと考えられます。この日は、やはり南方系で北上中のナガサキアゲハも見られました。

(2) ツマグロヒョウモン♂



この日はオスしか見かけませんでしたが、先日は校舎前をメスも飛んでいました。チョウはオスが美しい模様や色をしているものが多いのですが、例外的にメスの方がめだち、毒チョウのカバマダラに擬態しているといわれます。南方系のチョウで温暖化にともない北上しているといわれますが、幼虫のエサになるパンジーなどに卵などの形で紛れていることも原因の一つと考えられます。この日は、やはり南方系で北上中のナガサキアゲハも見られました。

(3) キオビツヤハナバチ



その名の通り、つやつやした黒色の体と、腹部の細い黄色の帯（しま模様）が特徴のハチ。ミツバチなどと比べるとずいぶん小さいですが、フジなどの花にもぐりこんで盛んに蜜を吸っていた大型のクマバチと近い仲間のようにです。カヤやキイチゴなどの髓の中に巣を作ります。ヤマトツヤハナバチなどよく似たハチもいるそうで、それとまちがえている可能性もあります。【理科支援員 宮内】